

題字 故前田和三部名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 松本純夫

令和3年度定時社員総会 (Web) を終えて



理事長 松本 純夫 (52回)

昨年度に引き続きCovid-19第7波によりWeb形式で社員総会を開くことになった。しかも教室創立100周年祝賀会と同時に開催することとして、会期を定款に記載された6月ではなく7月16日(土)に移して計画したにもかかわらず、祝賀会は令和5年3月5日に延期されて刀林会単独のWeb開催となった。そのため会員のお顔はモニターで見ることが可能であるが対面形式に比べ臨場感がないのは本当に残念であった。呼吸器外科の朝倉啓介(81回)教室同窓会係、本間敬子(事務局)と私の3人がJCS会議室に詰めて配信する体制を敷いた。令和3年度の終わりは一般社団法人社員(評議員)改選があり、51名の新しい社

員が選出された。投票は新たに構築されたWeb投票システムを利用して投票が行われた。但しメールアドレス登録がない高齢会員には従来通り投票用紙を郵送した。新投票システムへの変更に伴い選挙管理委員会とWeb集計結果を事務局とともに確認する方式に変わった。併せて規定もWeb投票方式に応じた方式に改正することを会員にはご理解いただきたい。その他の諸規定も見直しが堤顧問弁護士を中心になされ理事會・社員総会に諮られ承認後、全員集会まで報告された。報告事項は詳しくは議事録を参照いただきたいが、同窓会と教室の年間報告、各委員会報告として、選挙管理、将来構想、広報、国際、財務、刀林賞選考、学

会支援募金が行われ、新入室者報告がされた。社員総会の決議事項として令和3年度事業報告、予算案承認、会則施行細則廃止、評議員選出規則変更、刀林基金規定変更、刀林賞規則変更、学会支援募金承認、令和3年度刀林賞、新入室希望者承認が報告された。新人がビデオレターで挨拶するの味を聞いていて幸せな気分を味わったことを追記したい。最後に令和5年度の刀林会社員総会・全員集会は6月3日(土)午後1時30分(ザ・オークラ・東京を予定しています。コロナ流行が収まり会員一同が集えることを期待しています。

令和3年度定時Web社員総会議事録

日時：令和4年7月16日(土) 15時-16時20分

出席 松本理事長(52回) Web会議システムによる出席

出席

吉野(44回) 熊井(46回) 幕内(49回) 河瀬(49回) 理事長指名理事 安藤(50回) 中西(51回) 松原(53回) 島津(53回) 理事長指名理事 上野(57回) 窪地(58回) 磯部(59回) 小澤(60回) 黒田(61回) 学内理事 菅(61回) 理事長指名理事 浅村(62回) 学内理事 古梶(63回) 北川(65回) 志水(65回) 学内理事 澤藤(67回) 河地(68回) 石井(70回) 原田(71回) 川久保(73回) 北郷(74回) 菅沼(75回) 下島(76回) 秋山(77回) 岡林(78回) 松原(79回) 朝倉(81回) 茂田(85回) 狩野(86回) 松田(87回) 今井(89回) 竹内(91回) 蛭川(92回) 阿部(93回) 水野(94回) 辻(95回)

委任状による出席

相川(47回) 市来壽(48回) 竹中(54回) 久保内(55回) 古川(66回) 長(69回) 齋藤(72回) 入野(82回) 和田(84回) 前田(90回)

以上、社員51名中、47名出席。他に、役職理事1名、理事長指名理事3名

監事：熊井(46回、社員) 尾原(72回)

以上、Web会議システムによる出席。

陪席：堤健太郎顧問弁護士、岡田泰税理士、国際委員会委員長 八木洋(77回) 選挙管理委員会委員長 菱

田智之(77回相) 湘南東部総合病院 櫻井嘉彦(69回相) 同 中山祐次郎 同窓会係 木村成卓(79回) 以上、Web会議システムによる出席。事務局 本間敬子

上記の出席で、本定時総会は適法に成立したことから、定款により松本理事長は議長席に着き、開会を宣言した。ここで、本議会の議事録署名人として、下島直樹(76回) 朝倉啓介(81回) が選任された。Web会議システムにより、出席者の音声と同時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明ができる状態となっていたことが確認されて、直ちに議事に入った。

- 1. 同窓会年間報告
2. 教室年間報告
3. 新入室者名簿
4. 令和3年度財務諸表
5. 令和4年度事業計画書
6. 令和4年度予算案
7. 会則施行細則
8. 評議員選出規則変更案
9. 刀林基金規定変更案
10. 刀林賞規則変更案
11. 学会支援募金趣意書
12. ACRLS2022
13. 第15回国際胃癌学会
14. 第35回日本肝胆膵外科学会総会
15. 刀林賞候補者一覧
16. 新入室希望者資料(個人情報につき、画面閲覧のみ)
17. 報告事項
18. 同窓会年間報告
19. 議長物故者について黙とうが

行われた。議長より、資料4に基づき収支の報告があった。

2. 教室年間報告 浅村副理事長・教室主任 浅村副理事長より、資料1に基づき、人事異動・教室構成員について報告が行われた。

3. 委員会報告 (1) 将来構想委員会 将来構想委員会について、同委員長の議長より以下の報告があった。 本年の活動はなし。定款に基づき、各診療科からの委員を選出し、活動をしていきたい。

(2) 広報委員会 広報委員会石井委員長より、『刀林』117号・118号が発行されたと報告が行われた。

(3) 国際委員会 国際委員会八木委員長より、庄司佳晃君(88回)、一般・消化器外科、留学先米国、Cancer Institute)より留学支援要請があり、10月12日理事会で承認され、11月30日付で留学支援が行われたと報告が行われた。

(4) 財務委員会 財務委員会小澤委員長より、会費納入率が65パーセントであり向上させていきたいと発言があった。

刀林会学会支援募金 代表 松本純夫 口座が開設されたこと報告が行われた。

(5) 刀林賞選考委員会 刀林賞選考委員会島津委員長より、本年度の刀林賞には、田村亮太君(89回) 刀林奨励賞に、東尚伸君(90回) 志満敏行君(90回相) が選出されたことが報告された。

令和5年度刀林会全員集会(総会)のお知らせ

令和5年度は集合形式での全員集会(総会)を予定しております。皆様ふるってご参加ください。

日時：令和5年6月3日(土) 16時半
場所：The Okura Tokyo (ザ オークラ東京)
講演会 17時半開始
講演者 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授 矢作尚久先生 演題未定

Covid-19の感染状況によって、Web集会となる可能性もございます。

刀 林

また、刀林賞規則が変更となつたと報告が行われた。

(6) 学会支援募金委員会 学会支援募金委員会黒田委員長より、第52回日本心臓血管外科学会学術総会への学会支援募金全額を振込が終了したこと、第35回日本内視鏡外科学会総会の募金は継続中であると報告が行われた。

4. 新入室者報告の件 浅村副理事長・教室主任 浅村副理事長より、資料3に基づき、19名の新人が入室したと報告が行われた。

決議事項 第1号議案 令和3年度事業報告承認の件 議長より、報告事項1にて説明された報告内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第2号議案 令和3年度計算書類承認の件 小澤財務委員長より、資料4の計算書類に基づき説明が行われた。

議長は、熊井監事に監査結果を求めたところ、熊井監事より、尾原監事と会計監査を行った結果、問題は認められなかった旨の報告がなされた。

議長は、以上の内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第3号議案 令和4年度事業計画承認の件 議長より、資料5に掲載されている令和4年度の事業計画が説明された。

議長は、以上の内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第4号議案 令和4年度予算承認の件 小澤委員長より、資料6に基づき、令和4年度予算について、前年度との違いは、学会支援募金が予算案に入っていることである、と説明があった。

議長は、以上の内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

議長は、以上をもつて本日予定した議事の終了を告げ、閉会を宣した。

第9号議案 学会支援募金承認の件 ACRLS2022 藤田医科大学 杉岡篤君(61回) 第15回日本胃癌学会 慶應義塾大学医学部外科(一般・消化器) 北川雄光君(65回) 第35回日本肝胆膵外科学会総会 東京医科大学 教授田邊稔君(64回) 上記3学会会長より説明があった。

議長が以上の内容について議長に諮ったところ、全員一致で学会支援募金が可決された。

第10号議案 令和3年度刀林賞の件 島津委員長より、選考委員会にて下記3名が決定したことが報告された。

刀林賞 田村亮太君(89回) 刀林奨励賞 東尚伸君(90回) 志満敏行君(91回) 議長は、以上の内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第11号議案 新入会希望者承認の件 湘南東部総合病院 櫻井嘉彦君より、新入会希望者の中山祐次郎君(81回相)の推薦があった。

議長は、以上の内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

その他 中西泉社員(51回)より、内科学教室100周年記念祝賀会で歓談の時間があまりなかったので、ぜひ、外科学教室100周年記念祝賀会では、親睦の時間を作ってほしい、との要望があった。

議長は、以上をもつて本日予定した議事の終了を告げ、閉会を宣した。

令和3年度第3回理事会(Web)開催議事録 日時：令和4年3月23日(水) 18時30-19時30分 場所：東京都新宿区信濃町35番地 臨床研究棟3階 外科学教室・脳神経外科学教室 会議室 出席 吉野(44回) 市来寄(48回) 河瀬(49回) 松本(52回) 島津(53回) 窪地(58回) 磯部(59回) 小澤(60回) 黒田(61回) 菅(61回) 浅村(62回) 北川(65回) 志水(65回) 菅沼(75回) 朝倉(81回) 茂田(85回) 監事：熊井(46回) 尾原(72回) 陪席：堤健太郎顧問弁護士、岡田税理士 同窓会係：岡林(78回) 木村(79回) 山田(81回) 事務局 本間 (上記松本及び事務局以外は、全てWeb会議室システムにより出席) アジアロボット・内視鏡外科学会(ACRLS2022)会長 杉岡篤(61回) 第35回日本肝胆膵外科学会 会長 田邊稔(64回)

議長は、以上をもつて本日予定した議事の終了を告げ、閉会を宣した。

湘南東部総合病院副院長 櫻井嘉彦(69回) 中山祐次郎(93回相) 定刻に至り、議長は、純夫理事長が開会を宣し、本日の理事会が定足数をもって成立する旨を告げ、資料の確認のあと議事に入った。なお、議長は、審議に先立ち、Web会議システムにより、出席者が一堂に会すると同等に適時的確な意見表明が互いに行きわたる状態となっていることを確認した。

以上を通り、定款施行細則はその役割を果たしたものであり、廃止とすることが相当である。

2. 各規程の変更新旧一覧表

3. アジアロボット・内視鏡外科学会、第15回国際胃癌学会、第35回日本肝胆膵外科学会総会、学会支援募金委員会名簿

5. 令和3年度刀林賞候補論文一覧

決議事項 第1号議案 規定集修正変更の件 議長は、事前送付した資料をもとに説明した。

議長は、このうち、1. 定款施行細則は、現行定款、代議員選出規則、役員候補者選出規則に内容が組み込まれているため廃止することを提案した。

これに対して、議長は、2. 委員会設置要綱、3. 刀林基金規定、4. 将来構想委員会規則、5. 広報委員会規則、6. 刀林賞選考委員会規則、7. 刀林賞規則、8. 学術集会開催支援募金に関する細則

は、法人化に伴う表記の変更が中心とする改訂をなすことを提案した。

続いて、議長は、中山祐次郎(93回相)より、陪席の堤弁護士より、以下の通り補足説明がなされた。

1. 定款施行細則 法人化における定款等の策定の段階で、各条文は、その趣旨に応じて、定款における条項化、代議員選出規則及び役員候補者選出規則の策定をもって反映させることとした。わずかに残った条項はあるが、規定にするに及ばないものとした。

術集会開催支援募金までの規定を別紙の内容にて変更することを議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第2号議案 学会支援募金支援要請の件 以下の3つの学会支援について、審議がなされた。

(1) アジアロボット・内視鏡外科学会(ACRLS2022) 議長は、以上の内容について、藤田医科大学国際医療センター教授の杉岡篤君より学会について説明があった。

議長は、その内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

(2) 第15回国際胃癌学会の件 議長は、以上の内容について、北川雄光教授より学会について説明があった。

議長は、その内容について議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

(3) 第35回日本肝胆膵外科学会総会の件 議長は、以上の内容について、東京医科大学肝胆膵外科教授 田邊稔君より説明があった。

議長は、その内容について議場に諮ったところ、全員一致で原案通り承認された。

第3号議案 令和4年刀林賞選考承認の件 議長は、以上の内容について、島津元秀刀林賞選考委員会委員長より、以下の通り説明がなされた。

令和3年度刀林賞選考会が3月17日に行われ、5名の応募から刀林賞候補者は田村亮太君(89回)、刀林奨励賞については東尚

議長は、以上をもつて本日予定した議事の終了を告げ、閉会を宣した。

仲会員(90回)、志満敏行(90回相当)としたき旨決議がなされた。

議長は以上の内容について、議場に諮ったところ、全員一致で原案通り承認された。

吉野理事より、推薦者の中に選考委員はいるかと質問があり、島津委員長からは教授の先生は全員選考委員となっているので、推薦者の中に選考委員が含まれていることになると回答があった。

第4号議案 新入会員の件

議長の指名により、湘南東部総合病院副院長の櫻井嘉彦会員より推薦の挨拶、その後、入会希望者の同病院医師の中山祐次郎氏より挨拶がなされた。

次いで、議長は中山氏の入会の賛否を議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第5号議案 令和4年総会講演の件

議長より、令和4年総会について、以下の通り、説明があった。

本年の総会は、外科学教室100周年記念祝賀会が来年に延期となったことから、新たに日程を決める必要がある。総会中に開催する社員総会は、本来なら法人税法上の申告の期限から3か月以内に行うべきことから6月に開催すべきことが定款でも定められているが、諸般の事情に鑑みて、それより1か月遅く7月16日16時半からWeb開催とすることとした。

そして、総会を行う講演者は、北川教授に「慶應義塾常任理事に就任して」(仮

題)というタイトルでお願いしたい。

以上の講演会の開催について、議場に諮ったところ、全員一致で原案通り承認された。

第6号議案 評議員選挙の件

議長より評議員選挙の件で以下の説明がなされた。

本年は3年に1回の評議員選挙の年となったが、刀林会会員管理システムを使用した選挙をした。メリットは、費用節約(郵送代等)と時間の節約にある。但し、卒後50年以上の会員からは3名を選出するところ、メールアドレスを登録していない会員も多いので、例外として従来の郵送による投票とさせていた。投票の締切が今月末です。結果が出揃ったらご報告する。

議長より、評議員選挙についてのシステム変更について議場に諮ったところ、全員一致で原案通り承認された。

第7号議案 学会支援募金の件

議長より、顧問は理事長、委員長は黒田教授、委員は各診療科から出すものとし、木村成卓(心臓血管外科)、朝倉啓介(呼吸器外科)、茂田浩平(一般・消化器外科)、松田論(一般・消化器外科)の各会員とすることの提案があった。

議長より、以上について議場に諮ったところ、原案通り承認された。

なお、吉野理事より、委員についてはテンポラリーの方がよいのではないかと意見が出された。

第8号議案 学会支援募金の送金の件

議長より、招集時より追加されたその他の事項としてご相談したいことがあるとし、その指名により、事務局から以下の通り説明がなされた。

2021年度学会支援募金の第52回日本心臓血管外科学会(会長 鈴木孝明会員)の支援募金が終了し、その総額204万円となった。ワックスマン財団の例に倣い、総額の2%の40,800円を差し引いて送付する、あるいは、経費は徴収せず、204万円全額を振り込むことのどちらを選択すべきか。ご意見があれば伺いたい。

議長からは、以下の意見ないし回答がなされた。

小澤財務委員長・学会支援募金を運営するのに必要経費の考え方によると思う。最低限の必要経費(郵送代、コピー代など)をカバーする必要経費は頂いてもいいのではないかと思う。

河瀬理事・免税措置は受けられるか。

議長・どちらにしても公益法人ではないので、免税措置は受けることができない。

吉野理事・最近、刀林会は黒字だと思っているので、黒字は、刀林会負担でやってみて、様子を見たらどうか。

議長・社員総会の時に年度決算が出るが、そんなには黒字ではない。会費納入率が6割、諸経費が法人になつてからかかっている。会費納入率を上げなければいけない。

岡田税理士・問い合わせを受けた時点では、非営利団

体である当会が利益を挙げることがどうなのかという意味でご意見申し上げたが、実費程度の徴収であれば問題ないと思う。

黒田教授・募金額によって違ってくるので、2パーセントとはせずに概算の手数料をとるのはいかがでしょうか。

以上の議論を受け、議長は、今回は経費、手数料を徴収せず、204万円全額を振り込むことで議場に諮ったところ、賛成多数により承認された。

最後に、志水会員より、第74回日本胸部外科学会を開催したお礼の挨拶がなされた。

議長は、以上をもって本日予定した議事の終了を告げ、他に案件がないことを確認後、19時30分閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長がこれに記名押印する。

令和4年3月23日

令和4年度第1回Web理事会議事録

日時・令和4年7月16日(土) 14時15分～14時58分

出席 松本理事長(52回) Web会議システムによる出席

吉野(44回) 島津(53回) 窪地(58回) 磯部(59回) 小澤(60回) 黒田(61回) 菅(61回) 浅村(62回) 北川(65回) 志水(65回) 石井(70回) 菅沼(75回) 朝倉(81回) 茂田(85回) 近藤(88回) 阿部(91回) 監事・熊井(46回) 尾原(72回)

以上、Web会議システムによる出席。

陪席・堤健太郎顧問弁護士、岡田税理士

同窓会係 岡林(78回) 木村(79回)

以上、Web会議システムによる出席。

事務局 本間敬子

定刻に至り、定款39条に基づき松本純夫理事長が議長に就任し、本日の理事会が定足数をもって成立する旨を告げ、続いて議案の審議に入った。

報告事項

1. 外科学教室100周年記念事業へ1000万円寄附の件

議長より、事務局で議事録を確認したところ、外科学教室100周年記念事業への寄附の記載がなかったこと、その後の財務委員会議事録では寄附することが記載されている、と報告があった。

そこで、議長は、あらためて本理事会で、外科学教室100周年記念事業へ刀林会より1000万円寄附することを出席理事らに確認したところ、議場からは異議が出なかった。

決議事項

第1号議案 令和4年度事業計画承認の件

議長より、資料1の令和4年度事業計画案に基づき、説明があった。

議長は、これを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和4年度予算案承認の件

小澤財務委員長より、資料2の令和4年度予算案について説明があった。

吉野理事より、「支出の部 1 事業費 ③ 学会支援募金の300万円は何か」という質問があった。

小澤委員長は、集められた資金を当該学会会長に支払うためのものであると回答した。

また、吉野理事より、① 100周年記念事業に寄附をする1000万円は予算に入れないのか。② 外科学教室への1000万円の金額の根拠は何かという質問があった。議長は②の質問に対して、故北島元理事長時代に、2つの事業に500万円ずつ寄附しようとして決まっていたと回答した。

岡田税理士は、①の質問に対して、前提として、通常予算案は前年度末までにたてるものだが、この会の性格上、今の時期となっているとした上で、1000万円の寄附が確定しているのなら予算案に掲載すべきであると説明した。

これを受け、小澤財務委員長は、書類上の追加補正予算を10月理事会に出すと述べた。

議長は、以上を前提に、予算案の原案の賛否を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第3号議案 評議員選出規則変更の件

議長より、資料3の評議員選出規則改訂案に基づき、説明がなされた。

吉野理事より、本理事会の決議システムに賛成・反対の他、棄権、白紙があつてもいいのではないかと、いう要望があつた。議長は、決議システムにおいて、「賛成」、「反対」だけではなく

「棄権」を追加することを議場に諮ったところ、異議なく承認された。

次いで、吉野理事からは、電子システムによる投票の開票を100%担当者に任せていいのかわからないので棄権とするつもりだったとの意見があつた。事務局からは、電子システムによる投票により、集計が自動的になされ開票結果を選挙管理委員会委員と確認しているという説明をした。

吉野理事より、その一文を評議員選出規則に入れるべきであるとの意見があつた。

これを受け、議長は、評議員選出規則の原案を議場に諮らず、次回理事会で再度審議することを議場に諮ったところ、異議なく承認された。

以上をもって本日の議案をすべて終了したので、議長は、閉会を宣言した。上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。

## 外科学教室 100 周年記念祝賀会のお知らせ

日時：令和5年3月5日(日曜日)  
12時開演 着席形式(11:30受付開始)

場所：The Okura Tokyo (ザ オークラ東京)  
オークラ プレステージタワー 1階「平安の間」

後日、ご案内状を発送いたします。

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

令和3年度会計監査報告

令和3年度収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額に記載とおり相違ありません。

令和4年7月7日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

監事 熊井浩一郎

監事 尾原秀明

令和3年度収支計算書総括表

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 合計, 一般会計, 刀林基金, 備考. Rows include I 収入の部 (事業収入, 会費収入, etc.) and II 支出の部 (事業費, 管理費, etc.).

令和4年刀林会全員集会(Web)を終えて



慶應義塾大学医学部 外科(呼吸器) 朝倉 啓介(81回)

令和4年7月16日(土)に開催された刀林会全員集会は昨年引き続きWEB形式となりました。コロナ第7波下かつ土曜日ということもあり、配信会場(JCS本社)がある霞が関は道行く人もまばらでした。松本理事長(52回)、秘書の本間さん、朝倉(81回)の3名で、ラジオ放送室くらの小さめの部屋から配信を開始しました。合言葉は「タイムテーブル通りの進行」です。松本理事長の司会進行の下、最初に令和4年6月に教室主任に就任された浅村教授(62回)から「年間報告」がありました。続いて「会計報告」、「各委員会報告」、「学会支援募金のお願...」





学会報告

万国外科学会 2022 開催・参加のご報告



慶應義塾大学医学部外科 (一般・消化器) 万国外科学会日本支部 事務局長 八木 洋 (77回)

本年 8 月 15 日〜18 日にオーストリア (ウィーン) のホーフブルグ宮殿にて開催されました、International Surgical Week (ISSW) 2022, 49th Congress of the International Society of Surgery (ISSS) につきましては報告申し上げます。

本年 8 月 15 日〜18 日にオーストリア (ウィーン) のホーフブルグ宮殿にて開催されました、International Surgical Week (ISSW) 2022, 49th Congress of the International Society of Surgery (ISSS) につきましては報告申し上げます。



ホーフブルグ宮殿本会場にて今野弘之先生 (右) と筆者 (左)

生がご参加されました。事前準備に当たりましては日本支部長の今野弘之先生 (57回 一般・消化器) に多大なるご尽力を賜りましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

インパクトと可能性、また新興国の外科医の ISSW に対する強い期待とエネルギーを実感いたしました。終了後の公表では、現地参加者は 888 名、抄録登録数 718、セッション数 103 と、国際学会として決して大きくはございませんが、非常に活発な議論はもとより医学生を含む多くの若い参加者の熱量に、あらためてこの万国外科学会の歴史と可能性を感じました。

去る令和 4 年 10 月 27〜30 日に第 30 回日本消化器関連学会週間 (JDDW) が福岡国際会議場で開催されました。JDDW は消化器系の 5 学会が合同で開催する大規模学術集会であり、その中で今回は第 20 回日本消化器外科学会大会長を務めさせて頂きました。



北川雄光日本消化器外科学会理事長 (右) から記念の盾を授与された田邊稔会長 (左)

活発な議論が繰り広げられました。また、ソーシャルイベントとしては、感染対策に配慮しながらも、久々に華やかな会長招宴で皆様をもてなすことが出来ました。さらに JDDW として第 30 回の節目を迎えるに当たり、皇室から寛仁親王妃信子殿下をお迎えした記念式典や、藤井フミヤさんの記念コンサートが盛大に開かれ、アンコールを含めて満席の会場から大きな拍手が湧いていました。

最後にになりましたが、この度の学会開催にあたり、北川雄光教授には日本消化器外科学会理事長のお立場から多々ご指導を賜りました。また、塾内外で活躍する多くの刀林会員から多大なるご支援を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。次第です。



東京医科歯科大学大学院 肝胆膵外科学分野 教授 田邊 稔 (64回)

第 20 回日本消化器外科学会大会を主催して



第52回日本心臓血管外科学会  
学術総会 収支報告書

第52回日本心臓血管外科学会学術総会 収支決算書

■収入		■支出	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
<b>I 参加費収入</b>	<b>¥52,633,688</b>	<b>I 事務準備関係費</b>	<b>27,418,631</b>
1 学会参加費(総会・事後教育セミナー)	51,203,688	1 旅費交通費	146,079
2 ハンズオンセミナー参加費	570,000	2 事務用品費・消耗品費	51,861
3 会長招宴参加費	750,000	3 通信費	71,949
4 イベント前日懇親会参加費	110,000	4 会議費	634,204
<b>II 広告関係費</b>	<b>¥10,780,000</b>	5 招請者関係費	4,322,507
1 ポケットプログラム広告	1,353,000	6 事前準備業務費	12,073,131
2 HPバナー	1,375,000	7 広報・渉外業務費	1,125,300
3 動画広告	4,180,000	8 制作費	8,476,600
4 柱巻き広告	2,772,000	9 サイドイベント業務費	517,000
5 抄録アプリバースード	1,100,000	<b>II 当日運営関係費</b>	<b>147,069,637</b>
<b>III 書展展示出展料</b>	<b>¥39,731,800</b>	1 会場関係費	68,831,114
1 基礎小間	16,370,000	2 映像機材費	42,011,127
2 スペース出展料	4,576,000	3 看板・ポスター・パネル関係施工費	2,181,630
3 ホスピタリティールーム	7,700,000	4 同時通訳関係費	0
4 ホスピタリティスペース	11,000,000	5 運営委員関係費	7,727,819
5 書籍展示出展料	66,000	6 参加受付自動機利用経費	1,629,100
6 一次幹線工事費	19,800	7 展示会場関係費	7,126,880
<b>IV 共催セミナー</b>	<b>¥80,614,000</b>	8 記録関係費	0
1 ランチョンセミナー	57,750,000	9 飲食・会合・行催事関係費	11,143,009
2 イブニングセミナー	1,980,000	10 輸送交通費	0
3 モーニングセミナー	800,000	11 旅費交通費	6,402,958
4 ハンズオンセミナーモニター代	84,000	<b>III 事後処理費</b>	<b>737,753</b>
<b>V 寄付金・助成金・利息</b>	<b>¥7,995,681</b>	<b>IV 運営事務局指分</b>	<b>-6,952,000</b>
1 刀林会	2,040,000	<b>合計</b>	<b>168,258,021</b>
2 日本製薬団体連合会	5,155,000		
3 その他寄付等	800,000		
4 利息	681	<b>V 余剰金(学会返金)</b>	<b>3,497,148</b>
<b>合計(消費税10%含む)</b>	<b>¥171,755,169</b>		

第74回日本胸部外科学会定期学術集会収支決算書  
令和2年12月15日～令和4年5月26日

科 目	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	差 額 (B) - (A)
<b>I 収入の部</b>			
1 参加料収入	76,635,000	83,840,000	7,205,000
2 共催料収入	60,100,000	73,500,000	13,400,000
3 展示料収入	42,800,000	41,905,921	△ 894,079
4 広告掲載料収入	5,170,000	4,722,000	△ 448,000
5 寄付金収入	15,000,000	25,612,000	10,612,000
6 助成金収入	8,000,000	8,000,000	0
7 雑 収 入	0	1,763,868	1,763,868
8 一般会計繰入金収入	8,000,000	8,000,000	0
<b>収入合計</b>	<b>215,705,000</b>	<b>247,343,789</b>	<b>31,638,789</b>
<b>II 支出の部</b>			
1 事業費	190,705,000	222,985,108	32,280,108
(1) 人件費	7,867,115	7,201,820	△ 665,295
(2) 会場費	78,031,060	80,103,498	2,072,438
(3) 運営費	74,302,396	107,065,002	32,762,606
(4) 通信費	416,080	180,012	△ 236,068
(5) 旅費交通費	7,196,000	11,293,758	4,097,758
(6) 会議費	12,313,880	4,783,741	△ 7,530,139
(7) 備品・消耗品費	1,088,730	3,439,347	2,350,617
(8) 印刷費	6,489,739	4,910,922	△ 1,578,817
(9) 雑費	3,000,000	4,007,008	1,007,008
2 予 備 費	9,000,000	3,875,900	△ 5,124,100
3 一般会計繰出金支出	16,000,000	20,482,781	4,482,781
<b>支出合計</b>	<b>215,705,000</b>	<b>247,343,789</b>	<b>31,638,789</b>
<b>収 支 差 額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

寄付金収入のうち  
刀林会 7,640,000円

第74回日本胸部外科学会定期学術集会  
会長 志水 秀樹  
(慶応義塾大学医学部外科学(心臓血管))

第74回日本胸部外科学会  
定期学術集会 収支報告書

血漿分画製剤 薬価基準収載  
**ボルヒール®組織接着剤**  
生体組織接着剤 BOLHEAL® 賦血  
特定生物由来製品 処方箋医薬品 注意:医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元 **KMバイオロジクス株式会社**  
販売元 **一般社団法人 日本血液製剤機構**  
熊本市北区大塚一丁目6番1号 東京都港区芝浦3-1-1

BOL-202108  
[文献請求先及び問い合わせ先] 一般社団法人 日本血液製剤機構 くすり相談室  
〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/di/>

漢方医学と西洋医学の融合により  
世界で類のない最高の医療提供に貢献します



自然と健康を科学する  
**漢方の ツムラ**  
<https://www.tsumura.co.jp/>  
●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。  
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

病院紹介

日野市立病院



日野市立病院は、東京都日野市にある地域医療支援病院・災害拠点病院・東京都二次救急医療機関に指定されている300床の急性期総合病院です。中央線の豊田駅より徒歩15分の所に位置します。昭和36年11月10日に日野町立国民健康保険病院として20床5診療科から発足しました。昭和43年4月1日日野市立総合病院と名称を変更し、162床12診療科まで発展したのち、平成14年6月1日現在地に300床16診療科の日

野市立病院として新築移転しました。長年の医師、看護師の定員割れと占床率の低下から公立病院特有の慢性的な赤字経営でありましたが、平成19年7月1日慶應義塾大学病院の協力のもと熊井浩一郎(46回)を病院長として迎え人材確保と経営改善に着手し軌道に乗りがかりました。しかし、コロナ禍において今年度から脳神経外科と耳鼻咽喉科の大学からの派遣医師の引き上げにより急性期病院として苦戦を強いられており

ます。「市民に信頼され、選ばれる病院」を病院の理念として掲げ、職員一同300床二次救急病院を責務として頑張る所存です。当院の外科各診療科は、外科(一般・消化器外科)、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科です。外科の常勤医師といたしましては、藤田晃司(71回)、石川啓一(70回相当)、一坂俊介(83回)、溝田高聖(89回)、鶴沢一徳(90回)、塩野泰良(98回)です。お断りのない医療を心掛けるために、地域医療

前列左より、石川(70回相)、藤田(71回)、一坂(83回) 後列左より、塩野(98回)、溝田(89回)、鶴沢(90回)

支援副センター長の藤田が近隣開業医からの依頼を受け、外科で年間200例ほどの緊急手術を行っていただきます。また、一坂が腹部大動脈瘤の手術を令和3年8月より再開し、溝田が肝切除と膵切除を合計で年間25例程度できるように、鶴沢がTAPPの導入を含め腹腔鏡下手術件数も増加させることにより、後期研修医にとっても魅力のある病院を目指して頑張っておりま

ます。外科全体としての手術数は約800件うち後期研修医の術者件数は年間約250件となっており、非常に勤といたしましては、熊井浩一郎名誉院長、一般・消化器外科として北郷実准教授(74回)、呼吸器外科として立川病院の山本達也(67回)、小児外科として日野市で開業している大城清彦先生、乳腺外科として川口正春(74回相当)と石川結美子(95回相当)で各分野を担当していただいております。



外科部長 藤田 晃司 (71回)

現在新型コロナウイルス第7波の収束にむかっておりますが、多い日では発熱外来において外科医も協力のもと200人を診察し、日野市唯一の二次救急病院として新型コロナウイルス感染症と戦ってきました。このような地域と密着して診療を行うことにより、慶應義塾大学卒業生からの初期研修医応募はあまり多くありませんでしたが、近年では定員を大きく上回る応募をいただいております。今後

も南多摩医療圏での地域に密着した医療を継続し、初期研修医を含め当院の診療を理解していただきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

SUBARU健康保険組合 太田記念病院



前列左より 門野(93回) 中山(99回) 成松(93回) 後列左より 林(71回) 山下(92回) 谷(83回)

史嵩先生(99回D3)となっており、取り扱う疾患は、消化器癌が中心ですが、急性腹症や腹部外傷などの救急患者も数多く診療しています。心臓外科、呼吸器外科、小児外科が存在し、外傷手術もふくめ、外科学会専門医取得のための症例は網羅されております。

当院の存在する太田市は北千住から東武電車約1時間20分の距離にあり、市内にはSUBARUの主力工場があります。当院は2012年6月1日に前身の富士重工健康保険組合総合太田病院から、約800m西側の52,000m<sup>2</sup>敷地に新築移転し、富士重工健康保険組合太田記念病院と改名しました。救急部と心臓外科が新設されました。その後さらにSUBARU健康保険組合太田記念病院と改名、ベッド数404床の3次救急の総合病院となりました。ヘリポートを備えた三次救急病院で

あり、例年5500台前後の救急車を受け入れております。ハイブリッド手術室やICUなど最新の設備を持つております。地域の中核病院として市民病的役割をはたしています。整形外科、小児科、産婦人科、形成外科、外科が慶應からの医局派遣となっておりま



外科部長 林 浩二 (71回)

2021年の一般外科の全手術症例数692例です。前任の神徳純一先生(59回)のころからの地域への貢献のおかげもありまして、症例数は基幹病院として他に遜色ないものと考えております。内訳は胃腸手術40例(鏡視下9例)、大腸癌105例(鏡視下87例)、痔頭十二指腸切除術16例、膵体尾部切除10例、肝切除術11例、胆嚢摘出術105例(鏡視下104)、虫垂炎45例(鏡視下44例)、鼠径ヘルニア155例(鏡視下61例)などです。救急科が存在し、外科学会専門医取得のために必要な外傷手術も例年約10例程度施行されております。最近では病院の研修医から慶應大学外科に入学してする人材がいて、非常に喜ばしく思っております。中山史嵩先生は第1号です。この先、毎年続いて行ってくれると思っております。手術ロボットも近々導入の予定であり、病院としては上り調子と認識しております。今後とも太田記念病院をよろしくおねがいいたします。

# 令和3年度「刀林賞」選考結果について



刀林賞選考委員会 委員長  
医療法人社団幸隆会  
多摩丘陵病院 理事長・院長  
島津 一元秀 (53回)

令和3年度刀林賞には5篇の論文が応募されました。今回の刀林賞選考委員会は昨年同様コロナ禍の影響で対面ではなく、令和4年3月17日にweb形式で開催いたしました。事前に12名の選考委員に投稿論文をお送りし、全員から詳細な査読評価を頂きました。いずれも非常に優れた論文であり選考に苦慮しました。評価表の集計結果を基に慎重審議を行いました。その結果、最も評価が高かったのは田村亮太論文「A VEGF receptor vaccine demonstrates preliminary efficacy in neurofibromatosis type 2 / Nature Communications 2019掲載」で、全会一致で刀林会刀林賞に推薦しました。選考理由として、神経線維腫症2型(NF2)という希少かつ難治の疾患に対して世界初の免疫療法であるVEGFR 1/2ペプチドワクチンによるpreliminaryな有効性を明らかにし、既に有効性が認められ

ているVEGFR拮抗薬であるbevacizumabと比較しても、投与方法、効果持続期間、副作用において本療法の優越性を示しており今後の実臨床に直結する、などが挙げられ高い評価を受けました。他の論文も多くの委員が刀林賞または刀林会奨励賞に値するとの評価でしたが、中でも東 尚伸論文「Transplantation of bio-engineered liver capable of extended function in a preclinical liver failure model / Am J Transplant 2022掲載」と志満敏行論文「Infiltration of tumor-associated macrophage is involved in tumor programmed death-ligand expression in early lung adenocarcinoma / Cancer science 2020掲載」の評価点数が高く、この2編を刀林会奨励賞に推薦しました。東論文は脱細胞化技術を用いて、タンパク合成能・代謝機能を有するヒトに近

いスケールの再生肝グラフト作製に成功し、更に肝不全モデルマウスへ移植してその肝機能改善を認め、さらに28日間の長期に渡り生着・機能していることを報告したものです。世界で初めてヒトに近いスケールの再生肝臓がin vivoで有効に機能することを示したことは、いくつかのハードルはあるものの、肝不全に対する再生肝グラフト移植の臨床応用を期待させるものです。志満論文は早期肺腺癌切除例の臨床検体を用いて、腫瘍内に浸潤する腫瘍随伴マクロファージ(TAM)がTGF-βを介した腫瘍PD-L1発現の外因性調節因子であることを初めて示した論文です。この結果からPD-L1に加えTAMを標的とした新規コンビネーション療法が肺癌の効果的な治療戦略になる可能性が示唆されました。本治療法はいくつかのlimitationがあり、さらには他の癌腫の薬物療法にも応用でき

る可能性が示唆されました。今回は優秀な論文が多く、惜しくも落選した方々には今後も研鑽を積んで、是非とも次の機会にチャレンジして頂きたいと思っております。令和4年3月23日のweb理事会および7月16日のweb社員総会での審議を経て、最終的に今回の選考結果が承認されました。なお前回の選考委員会で、委員が共著者または親族であり利益相反を有する場合同様に扱いか議論になりました。刀林賞は慶應外科同窓会の内部の賞であるので選考委員が共著者であることも多く、慣例では共著者も審査を行っていただきました。この度、刀林賞選考委員会規則を改訂して、委員が利益相反を有する場合は自己申告により論文評価の辞退または遂行を決めることができることを明文化し、理事会および社員総会で承認されました。

# 令和3年度刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部  
脳神経外科  
田村 亮太 (89回)

この度は、伝統ある刀林賞にご選出頂き、誠に有難うございます。査読や賞選考を担当して頂いた皆様に感謝申し上げます。今回は、私が刀林賞に応募させて頂いた論文は、進行性神経鞘腫を有する神経線維腫症2型(NF2)に対するVEGFR1/2ペプチドワクチンに関する研究です。対象疾患は、NF2という前庭神経鞘腫や髄膜腫など腫瘍が多発し、若年より聴力が障害される難治性疾患です。10年生存率は67%とされ、患者で、研究が進んでおらず、確立した治療薬がありません。NF2関連の前庭神経鞘腫はVEGF系シグナルという血管新生経路が非常に活性化していることで知られております。私達は、良性の多発性脳腫瘍に対しては免疫療法という戦略がマッチしているのではないかと考え、VEGFRペプチドワクチンを応用することとしました。VEGFRエピ

した後、誘導された細胞傷害性T細胞がVEGFRを発現する血管、腫瘍細胞等をターゲットにします。その結果、興味深いことに、一例では以前抗VEGF療法で効果が得られませんでした。これはそれぞれの腫瘍抗体のアバスタチンで効果がなかったにも関わらず、本ワクチンで長期間の腫瘍縮小・制御を実現しました。また聴力を改善した症例も認めました。一方で課題もあり、嚢胞性病変に対しては、効果が得られません。また興味深いことに、神経鞘腫に関しては制御・縮小できたにも関わらず、同じ患者の髄膜腫に対しては効果が得られませんでした。これはそれぞれの腫瘍がどの血管新生経路に依存して増大するかによるものと思われ、現在、私達はこのワクチンを今回のNF2をはじめ、その他の難治性脳腫瘍に応用しようとして研究を進めております。

本報告にあたり、戸田先生、大平先生、吉田先生をはじめとする共著者の先生方には多大なご指導を頂き、感謝致します。NF2は希少疾患であり、治療薬開発に焦点が当てられる機会は多くありません。一刻も早く新しい治療薬を届けられるよう、より一層尽力する所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



# 令和3年度刀林奨励賞を受賞して



国立病院機構埼玉病院外科  
東 尚伸 (90回)

この度は、伝統ある刀林奨励賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。今回の受賞にあたり、日頃よりご指導いただき、ありがとうございます。北川雄光教授(65回 一般・消化器)、北郷実准教授(74回 一般・消化器)及び直接論文のご指導を賜りました八木洋専任講師(77回 一般・消化器)に厚く御礼申し上げます。

受賞対象論文は2022年3月に「American Journal of Transplantation」に掲載されました「Transplantation of Bio-engineered Liver Capable of Extended Function in a Preclinical Liver Failure Model」になります。末期肝不全の患者に対する唯一の治療は肝移植ですが、慢性的なドナー不足から、さまざまな肝移植の代替治療が研究されています。そのうちのひとつである人工肝臓の作製は、未だ小動物における有効性に留まっており、臨床応用に向けたヒトサイズへのスケールアップに成功していません。我々は臓器から細胞外マトリックスを維持したまま細胞成分を全て除去する脱細胞化技術に注目し、独自のプロトコルで灌流圧を制御しながら大量の肝細胞と血管内皮細胞を再細胞化することで人工肝臓グラフトの作製に成功しました。この人工肝臓グラフトはアルブミンや尿素、凝固因子の産生や、CYP関連遺伝子の発現を認め、ヒトスケールで肝機能を有する人工肝臓の作成に世界で初めて成功したことを証明しました。

たこと、造影CTで術後28日目でもグラフト内の血流が維持されていたこと、組織内における肝機能関連遺伝子の発現上昇などを確認したことから、世界で初めてヒトサイズの人工肝臓の臨床的有効性を証明することができたと考えております。本研究によつて、ヒトサイズの人工肝臓グラフト作製が可能であることが立証されたことは、今後の肝移植における臨床応用に向けて確実な一歩を踏み出したと考えます。

本受賞を励みに、今後とも肝胆膵移植領域において新しい境地を開拓すべく、精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 令和3年度刀林奨励賞を受賞して



がん・感染症センター  
都立駒込病院 呼吸器外科  
志満 敏行 (90回相)

この度は大変栄誉のある刀林奨励賞をいただき、光栄に存じます。論文作成にあたり多大なご指導をくださいました呼吸器外科浅村尚生教授を始め、東京慈恵会医科大学病理学講座下田将之教授、呼吸器外科学教室の先生方、刀林賞選考委員の先生方、ならびに刀林会会員の皆様にご場をお借りして深く御礼申し上げます。

受賞論文「Infiltration of tumor-associated macrophage is involved in tumor programmed death-ligand 1 expression in early lung adenocarcinoma」は早期肺腺癌患者の腫瘍間質において腫瘍随伴マクロファージ (tumor-associated macrophage: TAM) が腫瘍PD-L1発現の要因因子となることを示した論文です。肺癌の治療において2010年代にPD-1やPD-L1の免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) の有効性が次々と報告され、現在は進行・再発肺癌のみならず、術後補助療法にも適応が拡大しました。腫瘍PD-L1発現は腫瘍間質中の様々な免疫細胞により誘導されると考えられていますが、細胞傷害性T細胞 (CTL) 以外の因子では不明な点が多く、発現メカニズムの解明は新規治療開発の観点で重要です。これを踏まえ、慶應義塾大学病院にて完全切除を受けた病理学的0-1A期と診断された肺腺癌患者146人を対象とし、切除検体を用いて腫瘍PD-L1発現とTAMを含めた腫瘍間質中免疫細胞数の解析を行い、TAMとCTLがPD-L1発現に関わる独立因子であることが示されました。また、in vitroのヒト肺腺癌細胞株とTAMの共培養においても腫瘍PD-L1発現上昇が示され、TAMが産生するTGF-βがPD-L1誘導因子であることを実証しました。

とがすでに知られていますが、腫瘍PD-L1の発現誘導についてはほとんど知られてきませんでした。TAMならびにTGF-βの標的薬が腫瘍PD-L1発現を抑制する可能性を示したことから、既存のICIとの併用を含めた新規治療開発への応用性が高い研究であると考えました。

本研究は、当呼吸器外科の安全かつ短時間での肺切除が可能でMOSアップローチを通じて積んだ多くの臨床経験、豊富な肺癌検体・病理標本をもとに「clinical question」を得て論文化したものです。今後も呼吸器外科医として精進し、今回の研究結果をさらに発展させることができようように努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



留学成果報告

イギリス小児外科学会での研究成果報告



清水 隆弘(88回)

私は、黒田達夫教授のご高配の下、2020年6月に渡米し、2022年11月現在 Boston の Massachusetts General Hospital (MGH) の Division of Pediatric Surgery 所属の research fellow として Pediatric Surgical Research Laboratories の Dr.Donahoe ~ Dr.Pepin の指導の下、副腎におけるミューラー管抑制因子 (Millerian Inhibiting Substance: MIS) および MIS 2 型受容体 (MIS R 2) の機能解析の研究 (Translational research) に従事しております。

小児外科専修医の期間に国立成育医療研究センターに出向した際、2次がん寛解後の移植片対宿主病に苦しむ小児の治療に関わる機会があり、小児がんと希少がんを生涯の研究テーマにしている私は、渡米後に Dr.Pepin から「副腎において MIS R 2 は卵巣とほぼ同レベルの高発現している可能性が高い。2017年から MGH の Endocrine Unit の Chief Surgeon である Dr.Richard A.Hodin に協力を仰いで臨床検体の収集をしているが、副腎に関する Translational research を担当するフェローがいなくて困っている。」と聞いて、日本で小児の副腎がんの専門家がないという現状も踏まえ、この Translational research を自身の「メインプロジェクト」と密かに決めたのでした。そして、前任者の高橋信博先生から引き継いだ研究が一段落し Dr.Pepin の許可が下りた 2021年2月に本格的に

取り組み始めて、このプロジェクトの困難さを知ることになりました。Dr.Donahoe の名言の一つに「研究の 90% は Optimization だ。」があります。Dr.Pepin からの最初の課題「まず MIS R 2 signaling の存在を in vitro で証明すること」をクリアできたのは、実に9か月が経った2021年11月下旬のことでした。その週の Lab meeting で成果を報告する Dr.Donahoe は「胎生期にミューラー管を間に挟んで Gonads と対極にある Adrenal が MIS と無関係のはずがない。」とおっしゃり、イギリス小児外科学会での『Millerian inhibiting substance type 2 receptor (MIS R 2) function in the human adrenal』のタイトルで研究成果を報告する運びになりました。

コロナ禍での開催となったため 68th BAPS はハイブリット開催となり、コロナ禍での諸々のリスクを考慮して今回は、person ではなく web 参加を選択いたしました。現地の雰囲気や直接体験できなかったのは残念ですが、学会は web で3日間ほぼ全ての session に参加し、世界の潮流にふれられたのは非常に有意義でした。幸運にも私の抄録は口演演題 (Prize session) に選ばれ、画面越しではありませんが、早朝のラポに一人で発表・質疑応答したのは、非常に貴重な経験になりました。

私は2019年5月より約3年間、米国カリフォルニア州サンタモニカにございます Saint John's Cancer Institute (SJCI) 旧 John Wayne Cancer Institute) に留学をさせて頂きました。SJCI では古くから Saint John's Cancer Center (SJCC) から提供される豊富な臨床検体を用いた悪性黒色腫や乳がん、消化器がんの橋渡し研究が盛んに行われております。私が所属しておりました Department of Translational Molecular Medicine はこれまでに数々の外科学教室の先輩方がご留学され、多くの研究成果を挙げていらっしゃると思います。私自身は消化器がんや乳がんの化学療法耐性メカニズム、悪性黒色腫のバイオマーカーなど、様々な研究に参加させて頂きました。また、SJCC で執り行われる臨床研究のプロトコルの審査など、間接的ではございますが米国の医療にも関わる

ことができました。特に留学の後半はパターン認識受容体の一つである stimulator of interferon genes (STING) に注目し、トリプルネガティブ乳癌における化学療法耐性獲得機序との関連について研究を進めて参りました。STING の発現がシスプラチンや PARP 阻害薬耐性と密接に関わっていること、また、STING の発現調整には ubiquitin-4 と呼ばれるシャトル分子や一部のマイクロ RNA が関わっていることをイン・シリコ解析、機能解析、臨床検体等を用いて明らかにしました。STING に関する研究はバイオマーカーやがん免疫療法の分野において発展が期待されており、現在も東海大学医学部において研究を継続しております。

留学生活を通じて研究の手法や考え方、日々の臨床における疑問をどのように研究に発展させるかなど、様々なことを学び、考えることができました。また、研究体制や医療現場のみならず、感染症対策や家族との関わり方など、日米の違いを肌で感じる貴重な経験となりました。

このようになすばらしい留学の機会を与えてくださった北川雄光先生、竹内裕也先生、尾原秀明先生、川久保博文先生をはじめ、外科学教室の諸先生方に深く御礼申し上げます。また、本留学における費用の一部は三橋記念国際交流基金より助成していただきましたことを心より感謝申し上げます。今後は東海大学医学部外科学系消化器外科にて幕内博康先生、小柳和夫先生のもと、上部消化管疾患に対する外科手術を中心とした診療を学ぶとともに、留学での経験を活かし研究・教育にも積極的に携わり、少しでも教室の発展に貢献できればと考えております。



東海大学医学部外科学系 消化器外科 庄司 佳晃 (88回)

Saint John's Cancer Institute



留学記

マサチューセッツ総合病院 (MGH)

中小路 絢子(91回)

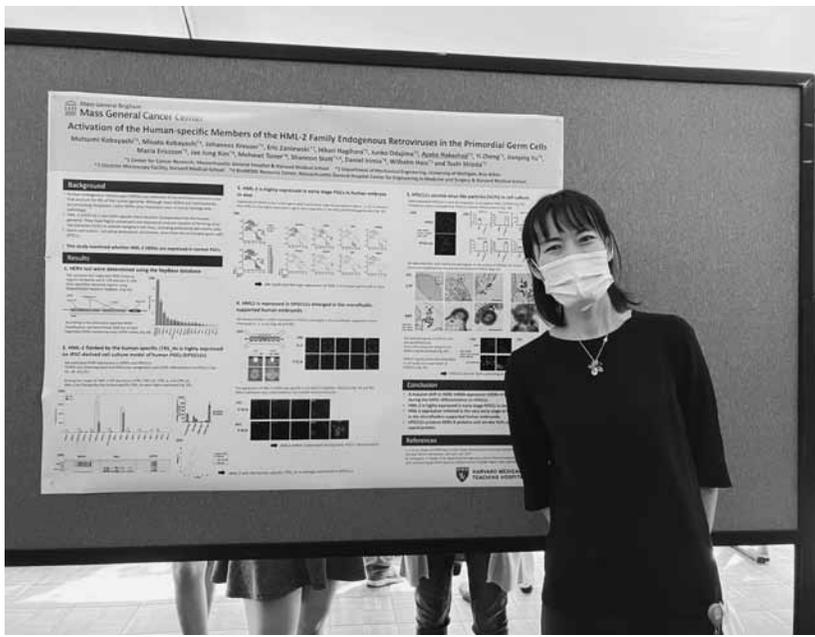
私は大学院を卒業し、ボストンで東京医療センター乳癌外科にて2年間研修をさせていただいた後、2022年4月よりボストンのマサチューセッツ総合病院 (MGH) の Center for Cancer Research (CCR) 内の Sh-

ioda Lab に研究留学させていただいております。ボストンは米国東海岸の都市で、世界でも有数の研究・教育機関が集まります。MGHのCCRには現在53のラボが所属し、癌について幅広い分野の研究が行われています。CCR内の

別ラボには過去に刀林会の諸先輩方も留学されてきました。CCRでは週1回、外部講師によるレクチャーと、ポスドクや博士課程学生による研究発表会があり、大きな刺激になっています。夏には Retreat と言われるイベントもあり、各ラボのメンバーによるポスター発表やPIによるレクチャーも行われました。

ラボのPIの塩田敏博先生は、広島大学医学部を卒業後、基礎研究の道に進み、MGH CCRでのポスドクを経てPIになられた先生です。ラボメンバーは、塩田先生、ポスドクは私一人、塩田先生の奥様を含めたテクニシヤンの方3人で、家族のようなラボです。

休日、他のラボのポスドク達と隣州の山にトレッキングに行ったり、家からすぐのチャールズ河のほとりを散歩したりして、気分転換しております。また、現在ボストンには外科の同期の森田先生や一つ後輩の横瀬先生、そして科は違いますが大学の同級生夫婦もおり、心強く感じています。米国での生活は、これまでの常識が通じないことや予想外の困難もありますが、何とか乗り越え人生の糧にできたかと思っております。



Retreat でのポスター発表

ラボの最近の研究テーマはIPS細胞を用いた生殖始原細胞モデルの樹立及びその長期培養、精巣腫瘍の臨床検体を用いた細胞株樹立などで、全く触れたことがない分野でしたが、非常に新鮮で大変勉強になる日々です。私自身は、生殖始原細胞で高発現する内在

性レトロウイルスについての実験を行っております。内在性レトロウイルスは乳癌においても認められており、とても興味深いテーマです。

最後にありますが、この貴重な機会を与えてくださった北川雄光教授、尾原秀明准教授、林田哲先生、あたたかく支援してくださった関連病院の先輩方、慶應義塾大学外科学教室、刀林会の皆様に心より御礼申し上げます。

Dr. Pawlik のオフィスにて

また米国肝移植レジストリである United Network of Organ Sharing データベース等を用いた研究に携わらせて頂いております。データベースと向き合

新しい知見の探索を行う毎日を送りながら、Dr.Pawlikのお気遣いにより、米国で移植外科医として活躍なさっている日本人の先生が主催なさっているオンライン研究ミーティングにも参加するご縁を頂きます。

渡米して半年以上経過しました今も言葉の壁や文化の違いに戸惑うことはありますが、幸いコンパスはホンダの在米支社が近隣にある関係で大変親近的なエリアであり、教会文化も根付いた温かいコミュニティの中で家族共々米国生活を楽しんでおります。

非常に恵まれたこの環境に感謝しながら、時間の限り一生懸命に研鑽を積んで参りたく存じます。最後になりましたが、留学に際しまして御高配を賜りました北川雄光教授、尾原秀明先生、北郷実先生、ならびに刀林会の諸先生方、皆様に深く感謝を申し上げます。

オハイオ州立大学



遠藤 泰 (91回)

私は2022年4月より米国オハイオ州コロンバスのオハイオ州立大学外科学の Chairman の Dr.Timothy M.Pawlik のもとに臨床研究留学をさせて頂いております。Dr.Pawlik は日本を含む海外からの Research fellow を多数受けて入れていらつしやいます。私もイタリア、ブラジル、パキスタン、南アフリカからの大変優秀な同僚に恵まれ、

協力し合い議論を重ねながら、日々切磋琢磨しております。また、Dr.Pawlik は Fellow に対して大変指導的であり、毎週行われるミーティングでは研究テーマをはじめ、統計のアプリケーション方法、アウトプットの仕方、論文作成の過程等について細かくご指導下さる為、非常に多くの学びを得ております。Dr.Pawlik グループは主に2つの研究



Dr. Pawlik のオフィスにて

地域便り

地方小都市における脳神経外科病院43年の  
キセキ (miracles and the track)



黒川病院 顧問  
黒川 健甫 (43回)

私は迷っておりました。前職の米国オハイオ州シンシナティの Dr. Mayfield のオファーをお受けして、一家で米国へ移民するかどうかです。当時は国立栃木病院脳外科に勤務しておりました。1976年ある日の午後、パートナーの佐野厚生病院のオペ室で手術中「アメリカ大使館から電話です。急ぎの用件との事です。」と呼び出されました。内容は、ベトナム戦争が終わり、南ベトナムよりの移民を最優先に受け入れなければならない。あなたの移民申請は現在有効だが、それを行するには今日から1カ月以内に一家で米国に入らなければならない事でした。1カ月以内は無理だと判断して米国入りは断りました。Dr. Mayfield にお断りの手紙を書き、どうせ日本に残るのなら両親のいる生まれ故郷山口県に帰ろうと決心しました。いざ山口県に帰ると決めると、

はある場所を考えました。そのため生まれ故郷の防府市は除外しました。最初にトライしたのは新山口駅前でした。新山口駅はもととはまだ山口市には含まれていなかった小郡町にある昔からの交通の要衝である小郡駅でしたが、国鉄から「ひかり」を止めるには駅名を新山口とするように求められた、と聞いております。その後小郡町は山口市と合併して名実ともに新山口駅となりました。しかし、当時の新山口駅の周りは、特に旧市街地の反対側の新幹線側は一面田んぼを埋め立てたばかりの更地で、土地公社のプレハブと多数の大売り出しの職ばかりの場所でした。私は事務所を訪れ、駅の真ん前の第1列の1区画を貰いたいと話しました。ところが、多分相手は脳神経外科を精神科と混同したような様子で、断られてしまいました。その事を山口県内で手広く事業を展開していた母方の従兄に話したところ、それなら

県内ではもう一つの「ひかり」停車駅である徳山へ来い、土地は用意するからと言ってくれました。徳山は私の母方の江戸時代からの事業の本拠地で小学生の頃からしょっちゅう祖父の家から出入りしていた馴染みの場所、私の迷いは払拭されました。この地で頑張ると決心しました。その後徳山市は平成の大合併で他の1市2町と合併して、市名は今の周南市に変わりました。JRの駅名は以前の徳山駅のまま続いております。決心した以上、翌年1977年末での退局を脳外医局にお願いをして、開業の準備の期間中の勤務先として地域の中核病院である社保徳山中央病院院長にお願いに上がりました。またその中央病院が山口大学の重要な関連病院の一つである事から山口大学脳神経外科青木教授にも挨拶に伺いました。夫々から大変歓迎して頂き、直ちに山口大学脳神経外科の非常勤講師と徳山中央病院脳神経外科

部長の職を頂きました。その後計画通り1977年末まで国立栃木病院に勤務し、1978年正月より徳山中央病院に着任しました。徳山中央病院の前身は旧海軍病院で、市の中心部に位置していましたが、私が着任する2年前に郊外の高台へ450床の新病院として建て替わったばかりでした。工事を手掛けた熊谷組の徳山事務所は病院の構内の一角にそのままありました。そこで私は新病院の設計施工を熊谷組にお願いし、新病院の工事に関する事は全て徳山中央病院院内で勤務を続けながら事済みました。徳山中央病院での勤務と云えば1978年1月2日に病院に挨拶で出向いたところ、すでに緊急手術が始まっていて、そのままオペ室入りして更衣室で医局員と挨拶し、また退職する際は1979年8月31日土曜日の夕方に最後の死亡診断書を書いて、翌日9月1日日曜日に開院パーティーを新病院で開催する

様な有様でした。1979年9月2日月曜日に無事開院しました。当時としてはまだ山口大学病院にも県立中央病院にもCTが無い時代で、CTを有する当院のその忙しさは大変でした。1990年には山口県東地区では初めての東芝のMRIを設置し、2003年には諸般の事情から外来部門を黒川医院として同一敷地内に分離独立させました。2017年には二男徹が院長に就任し、私は現在一医局員として働いております。現在は脳神経外科専門医4名と麻酔科標榜医1名の計5名で診療しております。私を除くあとの4名は全員山口大学出身者です。最近では医療行為のみならず保険行政上もIT化が著しく、特に2年後の保険証の廃止並びにマイナンバーカードへの移行を境に一段と全ての面でIT化が進むものと思われませんが、幸いにも当院において私以外は全員IT大好き人間の集まりですので、何とか対応してくれるものと思っております。現在は当院における手術件数の約半数が血管内手術に移行している状況です。その傾向は今後さらに進むと思っております。現在職員全員がビジョンを持って協力して仕事をしている姿を見て、私は感謝と感激でいっぱいでありました。最後にになりましたが、刀林創刊120号おめでとうございます。編集委員の皆様のご努力に感謝と敬意を表します。会員皆様の益々の御健勝と御活躍を祈念致します。

山梨県立中央病院



呼吸器外科センター長  
後藤 太一郎 (76回)

山梨県甲府市の後藤太一郎(76回生)です。前任は慶應義塾大学病院呼吸器外科講師でしたが、2014年4月、現職の山梨県立中央病院に赴任し、呼吸器外科を開設しました。当院は病床647床の、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院です。2016年4月には、肺がん・呼吸器病センターを開設し、センター長に就任しました。本センターは呼吸器内科10名程度、呼吸器外科23名名の組織ですが、開設にあたり、医員からの希望・意見を聴取することより開始し、医員全員がストレスなく、かつ、向上心を保ちつつ勤務し、患者の診療に集中できる環境を構築しました。また、呼吸器内科と呼吸器外科が共同で働くことにより、診療が seamless で効率的となり、肺癌患者の手術待期日数も大幅に削減することができました。センター内の雰囲気は明るく健康的で、術後 adjuvant 治療や術後合併症の治療な

どに内科の先生が主体的に関与してくれるので、医療の質や安全性が大幅に改善したと思います。当初、センター長として、当センターの方針を、(i) 決して断らずに患者を広く受け入れること、(ii) 地方にいなながらも萎縮することなく、世界最先端・患者中心の医療を行うこと、(iii) ゲノムの臨床応用により新しい医療体系を創造すること、に設定しました。開設から6年が経過し、山梨県内の呼吸器疾患患者の大半の診療を行い、手術症例は年間300例を超え(2021年度:318例)、また、研究面でも世界への発信を続けていますので(2021年英文論文発表数:20編、英文著書:1冊)、概ね所期の目標を達成できました。研究に関しては、院内に設置されているゲノム解析センターと共同して、臨床検体のゲノム解析を行い、斬新なデザインで先鋭的な研究を行うことにより、国内の肺癌遺伝子研究をリ

ドしてきたと自負しております。私は、センター長として、呼吸器内科、呼吸器外科の区別なく、癌のトランスレーショナル研究を指導し、多くの若手医師に研究成果が得られるよう支援して参りました。これらは、彼等の将来設計に寄与するものと信じております。また、院内に設置されたセンター本部には、手術教育用のドライラボや手術ビデオライブラリを設け、手術前の予習復習に利用するなど、人材育成を第一としております。刀林会の益々の発展に微力ながら貢献できればと考えて、これからも山梨の地で診療・研究・教育に励みたいと思っております。甲府まで中央本線特急で1時間半です。山梨は自然豊かな地で、歴史的な文化財やリゾート施設も多数ありますので、観光やスキーなどに最適だと思います。コロナで刀林会の皆様との交流が途絶えていますが、山梨にお越しの際は是所お声かけください。

なでしこ外科医



栃木県立がんセンター  
乳腺外科  
豊田 知香(旧姓:水口) (88回)

この度はなでしこ外科医の執筆という機会を頂き、心より感謝致します。

私は入局後、公立福生病院、栃木県立がんセンターを経て大学に帰室しました。大学所属中に出産し、北川雄光教授、竹内裕也先生、林田哲先生にご相談し、上部消化管班から乳腺班へと移籍させて頂きました。2019年3月にチーフレジデントを終え、5月に3人目を出産し、2020年4月から栃木県立がんセンター乳腺外科で非常勤勤務を開始し、2021年4月から常勤として復帰しました。

もともと国境なき医師団の一員になりたくて外科医を目指しました。しかし、結婚、出産の機会に恵まれ、方針転換をしました。乳腺外科医になることは国境なき医師団の夢と直結しないため、気持ちを切り替える必要がありました。自分の夢の原点を振り返ると、恵まれた環境に育ち、それを通して得たものを必要とし

ているところに還元したいというものがありません。乳腺外科医になってもその夢は叶えられると考え、乳癌診療に励むことにしました。

乳癌外科は子供を持つ母親の働き方には合っており、平日の日は忙しいのですが、手術も含め、時間内に終えることができ、検査・外来・手術と細分化でき、すべてできなくともどこかに特化して従事することもできます。

現在、常勤医師として検査・外来・手術を行っています。非常にやりがいがあり、日々充実しており、乳腺外科に転向したことを後悔したことはありません。今の勤務先は私以外に常勤医師が3名おり、非常に理解があり、快くフォローしてくださいます。またそれぞれ独立して診療をしているため、自分の予定に合わせて手術や外来を調整でき、子供の行事とも両立できています。このような恵まれた環境の中で効率よく

勉強させて頂き、比較的短時間で乳腺専門医取得の目標も立ちました。安藤二郎先生をはじめ、ご配慮ご協力頂きました皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

大腸外科の夫(90回生)に合わせて異動を希望して

おりますが、そのような配慮もしていただいていることに外科学教室の皆様にご感謝申し上げます。

大学所属中は妊娠や出産もあり、多数の同期、後輩にご迷惑をおかけしました。皆様にご迷惑をおかけし、皆さんの先生方に色々ご配慮頂いていたことは忘れません。その恩を返すためにもさらに成長して人々の役に立てる乳腺外科医になれるように精進したいと思っております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ致します。

間半世紀が過ぎました。医者になってあつという間に半世紀が過ぎました。間半世紀が過ぎました。間半世紀が過ぎました。

近況報告

52回生



奥田 誠 (52回)

何もできないままに医師免許を頂き、教室の定める卒業教育の後、足利日赤、東二、伊勢慶応と廻り、山王病院にてもう24年となります。これまで十分手術をさせてもらったので、5年前に手術と胃カメラから撤退し、山王メデイカルセンターに移り週4日勤務でしたが、コロナを契機に週2日勤務となりました。現在は午前外来、午後大腸内視鏡で月火の2日間は目の回



加藤木 利行 (52回)

私は小児専門の心臓外科医として、慶応病院及び清瀬小児病院で仕事をしております。2004年より埼玉医科大学に異動い



高橋 伸 (52回)

1999年9月に慶應から日本鋼管病院に移り、2014年3月まで勤務しました。2014年4月からは、訪問診療専門の、大田区西蒲田にある「河合クリニック」でフルタイムで働いています。他の先生は若い人が多い為か、患者さんと私とはすぐに仲良しになっています。

る忙しさですが、その後の5連休は一度味わうと何物にも代えられませぬ。一生かかっても読み切れぬほど集めた蔵書を老眼鏡をかけた居眠りしながら眺めたり、連休を有効活用して車で大自然の中につかりに行っています。今は家内と娘の3人暮らしで女性群に何かとガラクタ整理を迫られていきます。息子のところの孫2人を月1度は山中湖に連れて行くのが夫婦の楽しみとなつていますが、喜んでついてきてくれるのもあと数年と覚悟している昨今です。

たしました。大学病院で2年間過ごしたのち、国際医療センターというたくさん手術をするために作られた病院が出来まして、そちらへ転出して小児心臓外科を主宰しました。

定年近くなりました2014年には、隣接している埼玉医科大学保健医療学部の副学部長を兼任し、翌2015年から学部長となりました。やや不慣れた土地柄と、少子高齢化さらには昨今のCovid19のパンデミックと不利な条件の中で学校運営に苦慮しております。

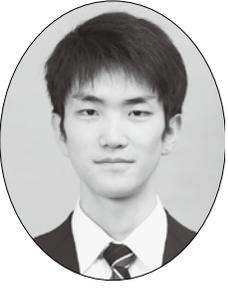
もう20年以上も続けている、糖質制限と1日約10km(現在は、自宅からクリニック迄3km、その他が約4km)のウォーキングで体調は良好です。体力がもつ限りは、現在の仕事を続けたいと考えています。教室のますますの活躍と発展を祈っています。

刀林会 新入会者紹介



湘南東部総合病院  
中山 祐次郎 (83回相)

この度、歴史ある刀林会への入会をお許しいただきました。湘南東部総合病院外科の中山祐次郎と申します。小生は神奈川県聖光学院中学・高等学校を卒業後二年間の浪人を経て鹿児島大学医学部に進学し、卒業後は東京都立駒込病院で約10年の外科修業を致しました。その頃知己を得た外科



青木 拓万 (99回)

出身高校: 慶應義塾 出身大学: 慶應義塾大学 部活動: 硬式庭球部、競走部 このたび慶應義塾大学医

医より、福島県では原発事故後に外科医が減っている聞き、外科医が集まるシステムを作ろうと声をかけられ4年の約束で赴きました。4年半、福島県郡山市の総合南東北病院という500床規模の施設で研鑽を積み、ロボット支援手術や京都大学への臨床研究留学を行うておりました。外科医収集システムが稼働し、若い医師が10人ほど増えたところで次の挑戦として湘南東部総合病院での勤務を2021年10月より始めております。当院ではロボット支援大腸癌手術を立ち上げつつ、地域医療に貢献すべく、櫻井嘉彦先生にご指導いただきながら精進して参る所存でございます。

99回生

学部外科学教室に入局させて頂いたいただきました青木拓万と申します。2020年に大学を卒業後、聖路加国際病院で初期研修を行いました。現在は多摩丘陵病院にて肝胆膵外科の島津元秀院長、食道外科の小澤壯治部長のもとで忙しくも刺激的な日々を過ごしながら研鑽を積んでおります。志望科は心臓血管外科です。諸先輩方の背中を追いかけ日々精進していく所存です。ご指導ご鞭撻のほどどうぞ宜しく御願ひ申し上げます。



青木 優介 (99回)

出身高校：筑波大学附属 駒場高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：端艇部

本年度より慶應義塾大学医学部外科学教室に入室致しました青木優介と申します。初期臨床研修を足利赤十字病院で修了し、現在は練馬総合病院で研鑽を積ませて頂いております。先生方からは日々丁寧なご指導を賜り、充実した研修生活を過ごしております。患者さんと医療に一生懸命に向き合い、精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。



岡田 純一 (99回)

出身高校：慶應義塾志木高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：野球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室いたしました岡田純一です。外科医の手術室での職人技と命を救うべく努力する姿に憧れて、私も外科医を志しました。至らぬ点が多々ありますが、皆様の様々な外科医に一步でも近づけるよう日々精進していく所存です。御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



女屋 悠 (99回)

出身高校：前橋高校  
出身大学：群馬大学  
部活動：弓道部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入室させていただきました女屋悠と申します。初期研修を公立館林厚生病院で修了し、現在は湘南東部総合病院にて修練しております。先生方からの熱心なご指導のもと、日々充実した研修生活を送らせていただいております。今後とも精進してまいりますのでご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



黒田 智之 (99回)

出身高校：海城高等学校  
出身大学：昭和大学  
部活動：ハンドボール部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室へ入室させて頂きました黒田智之と申します。輝かしい歴史をもつ教室の一員になれたことを大変光栄に存じております。国立病院機構埼玉病院での初期研修を経て、現在は佐野厚生総合病院で研鑽を積ませていただいております。偉大なる諸先輩方の背中にならぶよう一所懸命努力する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



佐藤 壮泰 (99回)

出身高校：穎明館高等学校  
出身大学：群馬大学  
部活動：軟式テニス部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させて頂きました佐藤壮泰と申します。日野市立病院での初期研修を経て、現在は浜松赤十字病院で研修しております。日々丁寧なご指導を賜り充実した研修生活に感謝しております。出来ることを一つ一つ増やしていけるように今後とも精進して参りますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



鈴木 将平 (99回)

出身高校：慶應義塾 湘南藤沢高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：アメリカンフットボール部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入局致しました鈴木将平と申します。私は令和元年に慶應義塾大学医学部救急医学教室に入局し、救命救急センターへの出向を経て3年間の救急科後期研修を修了致しました。外傷外科への理解を深めるべく、今年度より外科研修をさせて頂いておられます。至らぬ点も多々あるかと存じますが、何卒御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



須永 舞 (99回)

出身大学：慶應義塾大学  
出身高校：明治学園高校  
部活動：競走部

この度慶應義塾大学外科学教室に入室致しました須永舞と申します。済生会横浜市東部病院での初期臨床研修を終え、現在は東京医療センターにて研鑽を積ませていただいております。日々多くの手術に触れながら、諸先輩方からの熱いご指導の下で非常に充実した研修生活を過ごしております。一人前の外科医となれるようこれからも精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



竹部 兼輔 (99回)

出身高校：群馬県立 高崎高等学校  
出身大学：群馬大学  
部活動：軟式テニス部

この度外科学教室へ入室させて頂きました99回の竹部兼輔と申します。自身の進路を決めるにあたり、歴史があり、国内有数の名門大学である慶應義塾大学にて豊富な症例数の下で外科医としての素養を磨いていきたいと考え入局いたしました。大学時代のほとんどを部活動に費やして過ごし、そこで培った根性や泥臭さを活かして修練を積んでいきます。至らぬ点ばかりとは思いますが、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



張 舜愷 (99回)

出身高校：国立科学工業園 区実験高等学校 (台湾)  
出身大学：馬偕医学院 医学部 (台湾)

台湾の新竹出身です。学生時代、慶應義塾大学病院の消化器外科、小児外科を見学させて頂いた経験により、卒業後海外へ挑戦することを決意しました。大変なこともありましたが、現在外科研修で充実した毎日を送っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



中井 猛斗 (99回)

出身高校：桐蔭学園高等学校  
出身大学：昭和大学

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入室致しました、中井猛斗と申します。済生会横浜市東部病院での初期研修を経て、現在はJCO埼玉メディカルセンターにて修練しております。常に向上心を持ち続けられる外科医を目指して、日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



中山 和真 (99回)

出身高校：私立武蔵高等学校  
出身大学：日本大学  
部活動：サッカー部

この度慶應義塾大学外科学教室に入室させていただきました中山和真と申します。現在、国際医療福祉大学熱海病院で先生方の温かいご指導のもと修練を積ませていただいております。至らぬ点を痛感する毎日ですが、外科医として今後必要となる技術や考え方を学び身につけるため日々精進しております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。



中山 史崇 (99回)

出身高校：慶應義塾ニューヨーク学院  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：剣道部

初期臨床研修から続いて太田記念病院外科レジデントとして勤務しております。憧れであった外科医のスタートラインに立てたことを大変うれしく思っております。現在、腸班に興味を持っており、海外経験なども活かして、外科医としての人生を全うしたいと考えております。外科医として駆け出しの自分ですが、早く一人前になれるよう精一杯頑張ります。



子島 大輝 (99回)

本年度より日本鋼管病院に転向しております。子島大輝(ネジマダイキ)と申

します。僣越ながら自己紹介させていただきます。埼玉県さいたま市(旧浦和市)より出生し、私立栄東高等学校を卒業後、北里大学医学部に入りました。学生時代は硬式テニス部で6年間を過ごし、卒後は上尾中央総合病院で初期臨床研修を行いました。偉大な先輩方の背中を見て精進しております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



原田 優香 (99回)

出身高校：女子学院 高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：医学部管弦楽団

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。原田優香と申します。初期臨床研修を川崎市立川崎病院で行い、今年からさいたま市立病院にて外科医としての研修を開始いたしました。先生方の温かいご指導のもと日々充実した研修を送らせていただいております。今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



藤原 弘毅 (99回)

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：硬式庭球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。藤原弘毅と申します。初期研修を東京都済生会中央病院で修了し、現在は国際親善総合病院で研修を積んでおります。諸先輩方から日々熱心なご指導を承りまして、充実した外科医生活を送っております。今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひいたします。



横山 祐磨 (99回)

出身高校：岡山白陵高校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：医学部ヨット部

大変お世話になっており

ます。今年入局させていただきました。横山祐磨と申します。足利赤十字病院にて初期研修を行い、現在は国立病院機構埼玉病院で日々研鑽しております。高校生の頃から興味を持っていた外科医としてのスタートを切れたことを大変嬉しく思います。初心を忘れず精進して参りますので、未熟な点ばかりかと存じますが引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



吉田 大蔵 (99回)

出身高校：慶應義塾高等学校  
出身大学：慶應義塾大学  
部活動：水泳部 (専門：自由形)

慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。吉田大蔵と申します。この度は伝統のある本教室の一員となれましたことを誠に光栄に思います。初期研修を足利赤十字病院にて修了し、現在ははいゆう病院にて外科研修をさせていただいております。素晴らしい先生方より熱心なご指導を賜り、非常に充実した外科医一年目としての日々を過ごすことができました。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。

### 診療体系グループ紹介

## 血管班紹介



慶應義塾大学医学部 外科(一般・消化器) 准教授 尾原 秀明 (72回)

血管班はスタッフ2名、レジデント2名で、体制に大きな変わりなく引き続き少数精鋭で精力的に活動しております。閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤、腹部内臓動脈瘤、バスキュラーアクセス、下肢静脈瘤から深部静脈血栓症にいたるまで、幅広く脈管疾患に対応するとともに、血管合併切除を伴う高難度消化器外科手術、さらには小児・成人の肝移植手術にも携わっております。また、あらゆる血管トラブルにも全力で緊急対応しております。

大学病院内は小所帯ですが、近隣の中核病院に血管外科医を派遣し、その関連施設と強固な連携 (Keio Vascular Group) を構築していることを強みとしております。関連施設で臨床データを一括して集積しており、その一つである腹部大動脈瘤ステントグラフト症例のデータベースは2700例に達しました。院内においては、フットケアチームの活動を中心として

組織横断的な活動を継続しており、生理機能検査室の血管診療技師 (CVT: Clinical vascular technologist) の認定技師との定例ミーティングも開始しました。治療経過をメディカルスタッフにフィードバックする重要性を実感しております。

臨床研究においては、難治性皮膚潰瘍に対する First in Human の臨床試験である「難治性皮膚潰瘍を対象とした間葉系幹細胞由来血小板様細胞 (ASCL-PLC) の探索的臨床試験」(実施責任者：尾原) が、2022年1月に第1例目が実施され、大きな合併症なく、極めて良好な経過が得られました。ASCL-PLC は慶應の松原由美子先生らによる慶應発シーズでの開発品であり、今後10例の投与完了を目指しているところであります。他にも光超音波イメージング装置を用いた新たな脈管病変画像診断法の開発、さらに産婦人科と連携した子宮移植プロジェクト

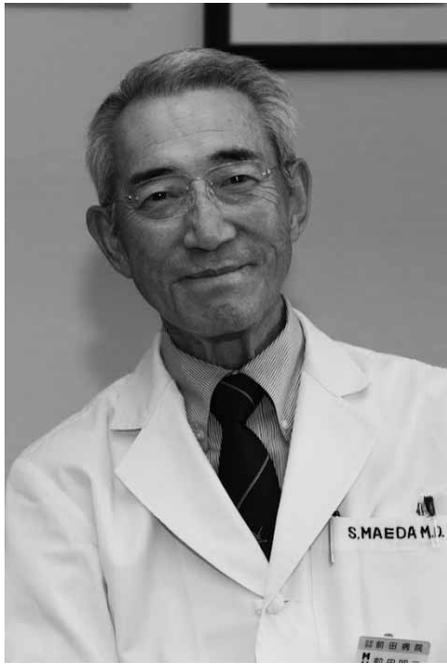
にも参画し、多角的に研究を展開しております。近年、関連施設の血管班員が次々と外科部長、副院長、院長に就任し、全面的なサポートをいただいております。大変心強い限りです。また、開業した中堅もみな大成功で、血管外科疾患の

ニーズの高さを象徴していると感じております。血管班のさらなる発展に向け、今後も臨床、研究、教育に邁進してゆく所存です。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。



# 前田昭二大兄を偲んで

多摩丘陵病院名誉理事長  
掛川 暉夫 (33回)



赤坂見附前田病院総院長前田昭二先生のご逝去の報に接し深甚なる哀悼の辞を称します。

彼とは同期ですが三年年長、先輩に当たるので前田兄と称させていただきます。

旧制医学部予科三年の冬期休暇の折、当時三四会所の赤倉山荘(夏、冬期休暇、二月初旬のみ開荘)の委員(通称番頭と呼ばれた)として赤倉に居た処に旧制成城高校より予科3年に転入して来たばかりの彼がスキーを樂しむ為現れたのが親しく会話を交わすきっかけとなった。当時のスキー台への靴の固定は捻挫防止のため転倒するとすぐ外れる様にワイヤーバネ固定(ビンディングと呼ばれた)であったが上級者は逆に外れぬ様にバネの上からさらに皮バンド(前傾バンド?)

で固定して居たが、彼はそれを付けスロープを颯爽と滑走したが、その姿は今でも強く目に焼き付いている。学部に進学してからはグループも違い、また、私自身大学の体育会端艇部漕ぎに没頭、授業参加極めて稀であった為前田兄との接触は殆どなかった。卒後同じ外科学教室に入局、所属研究部門は異なつたが私と同じ研究室の畏友星野君と前田兄が親友であったので彼を介して交友が再開した。慶大外科初代教授と目された御尊父前田友助先生からの遺伝子を基盤としてある事大と思うが、兄との接見でき、更に同門でもないのに両泰斗から終生変わらぬ愛情溢れる御指導を賜る事ができたが、兄のお陰と感謝の念を深く心に刻んで居る。更に彼の在医局時代の多々ある業績の中で私の頭にすぐ浮かぶのは当時胃の診断には胃鏡(鋼鉄パイプ製)が使用され患者に与える苦痛は想像を絶するものであったが、現在のフレキシブルにとんだファイバースコープ導入の役割に多大な貢献をした事、又、痔の手術が肛門全周にメスを加える「ホワイトヘッド法」が定例手術であり、患者は術後狭窄で排便に難渋

して居ることが垣間見られた。縦割り社会で「難」あつても先輩の意見に従わなければならぬ当時の医局で付度なく率直な意見具申、批判を、又タブーとされていた他大学、施設に出かけ積極的に知識を吸収封建的医局に新鮮な気分導入の機運を醸し出した。即ち現在推奨されている「グローバルゼーション」の先駆的役割を果たした。私自身も当時文学界で夫々大衆文学、純文学の雄と言われた吉川英治、志賀直哉に匹敵すると称された医学会の大御所、中山恒明、梶谷環、両先生のメス捌きを兄の紹介で直接拝見でき、更に同門でも

するものが常であつたが特核の部分切除(パークス法)の有用性を提唱し標準手術に定着させる等、原理に基づく実利実践を見事示した。また、兄との会話の中で彼は本来文科系分野に進みたかつたと述べた事があつたが、現在日本外科学会で使用されている「シンボルマーク」は彼の作成によるもので、文系才能にも富んでいることを見事に実証した。兄の油乗つた熟年期の活躍に就いては遠く九州在中の私には接点無く知る由もないが、お互いにメスを捨てて外科医現役引退後に突然「彼」著述による「榮養学の書」がおくられて、医師としての探求心、患者への配慮等に些かの衰えなき姿を読み取り、畏敬の念と同時に強い刺激を受けた。

広範囲の分野に及ぶ数多い人脈を持つ彼を偲ぶには適任者多々居られ小生如きでは役不足と考へ躊躇を禁じ得なかつたが、数少ない生き残り同期生の立場で偲ぶことにも意義ありと筆を走らせたが、冗長、拙文に終始してしまつたことをお詫びしつつ、重ねて畏友前田昭二大兄のご冥福を祈り稿を閉じる。

# 故 佐久間正祥君(47回、享年79歳)を偲んで

東京歯科大学副学長  
東京歯科大学市川総合病院  
外科教授  
松井淳一 (58回)



佐久間先生叙勲受章祝賀会(平成25年7月13日)でご挨拶される佐久間正祥先生



手術を執刀なさる在りし日の佐久間正祥先生(水戸赤十字病院佐藤宏喜院長、外科清水芳政先生ご協力)

佐久間正祥先生が令和4(2022)年5月19日ご逝去されました。

佐久間先生から毎年私を励ましていただく年賀状をいただくのですが、今年の正月には届かなかつたので「先生、どうかなさつたのかな」と思っていました。

ついそのままにしておりましたが、突然まさかの訃報が20日に届き大変に驚きました。

先生は、昭和55(1980)年、当時の国立霞が浦病院からまだ30歳台で新星のごとく外科部長として赴任なさいました。水戸赤十字病院は、全国90余の赤十字病院の中でも初期に設立された歴史と由緒のある病院でしたが、昭和50年代には大戦直後の木造病棟が残る古く貧弱で沈滞した雰囲気でした。そんな病院を佐久間先生が臨床の先頭に立ち病院職員のマインドを大

きく変えて、平成7(1995)年からは副院長、次いで平成15(2003)年から病院長として病院の運営・経営と発展に尽力され、水戸赤十字病院を現在のようにな茨城県の中心的病院にまで大きく育まれました。その間、地域医療、そして災害医療に率先して取り組み、阪神淡路大震災や東海村原子力発電所事故では自ら救援の陣頭指揮を取られたと伺っています。

平成25(2013)年ご退職とともに、水戸赤十字病院名誉院長が贈られ、同年春には長年のご功績に瑞宝中綬章を受賞、叙勲の栄に浴されました。そして、胃癌などの消化器検診に名誉院長に就任なさつた後まで長く携わられたご貢献に對して同年日本対がん協会賞も贈られています。

私は、先生が昭和55(1980)年5月に第2外科

部長として着任なさつた直後2週間にフレマン出張で佐久間先生に初めてお目にかかりました。その後滝沢建先生(53回)がチーフ出張で私のさらに2週間後に着任なさつて3名が揃つた体制になりました。すなわち、私はフレマン出張の開始2週間ほどを慶應外科から初めて送り込まれた佐久間先生と二人だけで過ごすという大変貴重な経験をさせていただきました。水戸赤十字病院最初のフレマンとして1年間外科診療と手術だけでなく学会発表のイロハも丁寧に御指導いただきました。佐久間先生は卒後2年目の私を仕事の後、何回も夕食に連れて行つてくださいました。先生の経験や外科医としての想いを穏やかに説いてくださいましたが、中でも「外科医は優しくなければならぬ、松井君、患者に謙虚でいなさい」と言つた内容のお話を聞かされました。若く血の気多い当時の私には恥ずかしながら正直ピンと来ませんでした。しかし、今改めて、佐久間先生の優しさと丁寧さがその後の私や、直接薫陶を受けた60名を超える門下生達の外科医としてだけでなく人としての礎になつているのだと感じております。そんな水戸赤十字病院の佐久間先生門下生がいつの頃からか毎夏8、9月に水戸に集まつて佐久間先生を囲む会が開催されて来りました。ゴルフやサッカーなどを佐久間先生と一緒に楽しんだ後、佐久間先生との思い出話を肴に飲んで夜中まで語る楽しい会でした。

佐久間先生は、とにかくスマートフォンでカッコいい先生でした。先生のご葬儀は5月22日水戸市内にて営まれました。ご棺で休んでいらつしやる佐久間先生に最後のお別れを申し上げましたが、以前と変わらぬ優しいお顔のままでした。思わず涙が溢れました。

佐久間先生、これからも先生の後輩や弟子達を天国から優しく見守っていてください。どうぞ安らかに眠りください。合掌。

# 比企能樹君 (37回) を偲んで

元国立がんセンター外科  
丸山 圭一 (41回)

比企先生は2022年10月14日、誤嚥性肺炎で逝去されました。89才でした。10月17日に鳥居坂教会で家族の皆様による葬儀が営まれました。大きな身体で笑顔絶やさず、親切で、細やかな心遣いで、誰にでも好かれるお人柄でした。組織では陰で支える役割をこなし、大きな包容力で、私たちの親分でした。礼儀知らずの上、暴走しがちな4年後輩の私のために、謝つたり根回しをして下さったことが何度もあり、心から感謝しています。

先生の父君は東大病理日大内科・医学部長から国立がんセンター第二代総長を勤められた比企能達教授です。奥様の寿美子様は祖父君は九大外科の三宅速教授、父君も九大外科の三宅博教授です。奥様はエッセイを書かれ、祖父とアインシュタインとの親交を紹介した「アインシュタインからの墓碑銘」などを出版されています。長男の直樹先生は胃癌内視鏡手術の第一人者で、癌研外科から現北里大学外科教授、2年くら

生を診てこられました。本當の医者一族です。比企先生は湘南高校から慶應医学部へ進学し、医学部先端部へ入り、1956年メルボルンオリンピックのエイト日本代表で準決勝まで進まれました。練習がつかうて戸田合宿所では前を走るトラックに轢かれたりと思つたこともあると伺いました。文武両道で1回も落第をしませんでした。1958年卒業後、外科島田信勝教授の大学院に入り、食研外科研究室と7号

棟地下にあつた黎明期の胃鏡室で、胃癌と内視鏡の研究に打ち込み、業績をあげられました。1984年から創設間もない北里大学外科教授に赴任、消化器外科内視鏡診断と治療、後輩の育成に努められました。

1968年から2年間、ドイツ・キール大学に留学され、ご夫妻ともドイツ語と英語が堪能です。業績と人となりは国際的に広く知られていて、万国外科学会、ドイツ外科学会などの名誉会員、ドイツ自然科学学会、国際胃癌学会など多くの学会を主催。2004年から慶應義塾評議員・理事、2005年から三四会長、2013年から連合三田会会長を歴任されました。多くの仲間と後輩を代表して、心からの感謝を捧げ、冥福を祈ります。



比企能樹先生 2016年



1956年メルボルンオリンピック、エイト代表の比企先生 (左端)



親友のミュンヘン医科大学外科のジーベルト教授夫妻と 2007年

## 比企能樹先生を偲ぶ会についてのお知らせ

日時：2023年3月12日  
14時開始 (受付13時半より)  
場所：ロイヤルパークホテル東京日本橋  
〒103-8520  
東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1  
電話 03-3667-1111 (代表)

北里大学主催の着席形式での偲ぶ会となります  
コロナ禍のため、飲食の提供はございません  
会費：2万円 (事前にお振込みが必要です)  
ご参加を希望なされる場合は、刀林会事務局に  
12月20日までにメールまたはお電話、  
FAXにてご連絡ください

メール：tourin-h@keio.jp  
電話：03-5363-3800  
FAX：03-3359-9130



# 池内駿之君を偲んで 大病と闘い抜いた君へ

国際親善総合病院 病院長

安藤 暢敏 (50回)

君が5月22日に逝去された旨の訃報を刀林会事務局からのメールで知りました。コロナ禍以後会う機会もないまま息災でいるとばかり思っていましたので、驚きと共に寂寞の想いを禁じ得ません。

医学部50回生時代には君とはそれほど親しい仲ではありませんでしたが、外科学教室へ進んだ20人の仲間一人として、さらに一般消化器外科へ帰室して掛川暉夫先生率いる食道班へ別所隆君と3名で参入し、臨

床・研究で同じ釜の飯を食べ苦楽を共にしました。当時は各研究班での研究指導態勢は今ほど整備されてなく、いわゆるティーテラールバイトのテーマは各人が自ら模索し進める時代でした。そのような中で君は食道がん治療の重要な手段である放射線治療に注目し、ヌードマウスを用いてヒト扁平上皮癌株に対する放射線感受性を、主として細胞動態の解析より検討するテーマに挑んでいました。食道がん患者のベツトサイ

ドにへばりついて周術期臨床データを集めていた私の目には、何か崇高な研究をしているように写っていました。この研究が実を結び、「ヌードマウス可移植性ヒト固形癌の放射線感受性に関する実験的研究」というタイトルで阿部令彦教授が主査となり学位を授与されました。

術後合併症を乗り切りましたが、それらの病態の深刻さを知る君の当時の心中は察するに余りありません。2007年には気管食道科医長として現場復帰し、2009年からは厚労省保健局社会保険調査室で医療行政に携わりました。食道班OBが掛川先生を中心に横浜の焼き鳥屋に集う会にも君は時々顔を出し、5年ほど前にもそこで君の当時の近況として医療技術系の大学で教鞭をとっていることなどを聞くにつけ、術後10年以上経過し病はずつかり癒えたものとはばかり思っていました。君はおくびにも出ませんでした。君は、実は術翌年には最初の肺転移が見つかり以後計4回の両側肺転移巣切除を受けていたことを後に知りました。

ともない、相手をするのが楽しい飲み手であった。休日には、回診や雑用が終わった後、どちらが誘うともなく外苑東通り沿いの居酒屋に向かい、まだ明るいうちから深夜まで、店も変えずに差し向かいで過ごしたことが何度もあった。彼は、小林紘一教授の下で人工赤血球の研究に取り組んでいたが、酒の席では、実験の苦勞を聞かせてくれることもあった。

チーフレジデント後に当時の国立東京第二病院へチーフ出張し1995年には外科医長になった君を、2005年に肝門部胆管がんという思いがけない病魔が襲いました。未だ寒さが残る3月初めに入院先の東大病院の広い個室に君を見舞い、突然のビリルビン尿に愕然としたこと、前週に受けた術前門脈塞栓術の鈍痛がこたえたことなど、普段寡黙な君が少しずつ話してくれたことを鮮明に覚えています。その後君は外科医ゆえにその侵襲の大きさに腰が引けてしまう拡大肝切除+臍頭十二指腸切除術

北海道出身の君は道産子らしく忍耐強くこの病魔と闘い抜き、くじけずに君らしく78年の人生を全うしました。お疲れ様でした。ゆっくりお休みください。

柿崎徹君は、塾医学部を卒業後、外科に入局し、1991年に呼吸器外科研究室に帰室した。柿崎君は国立療養所晴嵐荘病院(現NHO茨城東病院)からの帰室であったが、晴嵐荘病院は、豊富な呼吸器外科手術数を誇る施設で、出張中は一般消化器外科の経験ばかりの私にとっては、教えを乞うことも多い同僚であった。学生時代から、温厚な人柄で、強く自己主張をすることも少なかったが、近くで働きはじめてみると、日常診療での判断や決断は早く、納得するまでは自分の意見を曲げない強さも持っていることがわかった。学生の頃には気がつかない一面だったが、外科医としては見習う資質だと感じたことを覚えている。

み時間を削って診療する日々だったのだと思う。お嬢さんが関西の大学に進学するというので、遠くに行かせるのは心配ではなにか、と尋ねると、うちの子は独立心が旺盛なんだよ、とか、本人の希望通りにさせるのはいんだよ、と名門校への進学をただ喜んでいて。彼の大らかな性格が、伸び伸びとしたお子さんの成長を育んだのかと思う。

川崎市立川崎病院

呼吸器外科 副院長

澤藤 誠 (67回)

# 柿崎徹君を偲んで



1991年春、研究室で野球観戦(東京ドーム)に行った際の柿崎徹君(前左端)

2010年に開業するとの話を聞いた。生真面目すぎるころもあり、開業医に向くものだろうかと思ったりもしたが、開業後、連絡が取りたくてクリニックの昼休みにあたる時間に電話をしても、まだ診療の真最中で忙しうに電話口にてくるのが常であった。患者さんからは、丁寧な時間をとって診てくれるとの評判のようで、休



数年前から体調を崩し、闘病しながらクリニックでの診療を続けていたそうである。いよいよ体調が悪くなり、クリニックを休んで自宅で療養していたところ、間もなく最期を迎えたことである。体調の優れないなかで、ぎりぎりまで診療を続けていたと聞いて、彼の柔和な顔が目に浮かび、思わず胸が熱くなってきた。実直な柿崎君らしいな、と思う。今は、ご冥福をお祈りするばかりである。

